ーキやグレープジュースを準備してくれていた。これには、私はホームステイの身ではあるが、真に彼らの生活に溶け込み彼ら家族の一員になれた気がした。また二日目の誕生日当日、彼らは私の江ノ島や鎌倉に行きたいとの願いをかなえるために週末なのに早起きをした。そして江ノ島に向かう道中、ホストファザーが電車の手すりに寄りかかって眠っているのを見かけた瞬間、私はこうした要望を伝えたことを後悔してしまった。

細やかで気配りが行き届いているという点が私の感じた日本人の国民性である。日中両国の交流は長い歴史があり、文化的には同じベースを受け継いでいる。こうした点もまた効果的な交流を可能とするポイントである。日中両国の幅広い交流をベースに中国が日本の優れた点を吸収することができれば、中国の国民の全体的な素養の向上に必ず役立つと思う。

大学名： 外交学院
氏　名： 姜雅琦

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

日本人のマナーや思いやりについて初めて感じたのは JAL の整備工場で 2 名のスタッフが寒い風が吹く中で立つ位置を変えてまで私たちの姿が見えなくなるまで手を振ってお別れをしてくれた時で、それはとても印象深かった。

買い物の際の店員のサービス精神の素晴らしさもまた印象的であった。彼らは商品を丁寧に整え、しっかりと包み、両手で客に手渡す。またサービスの過程では常に親切丁寧でまた笑顔で客に温もりを与えていた。

この他、路地等の公共スペースにおいて日本人は常に静かで、大声で話をすることはなく、割込み等の秩序を乱すような行為は尚のこと存在しない。

中国の国民の素養はすでに大きく向上しているが、全体としてこれほどのレベルに到達するまでにはまだ隔たりがあると思った。

同様に特筆すべきは、日本人は「お元気で」、「お気をつけて」、「ありがとう」、「すみません」といったマナー用語を頻繁に使っており、これらは相手が温かい気持ちになり、また心地良さを感じる以外に、ひいては感動するものである。「他人に迷惑をかけない」ことは日本人の国民性の一つの特徴で、もし日本人のこうした品性を学べば、自分もまた他者に温もりを感じさせる人になれるであろう。

そして忘れられないのは、地下鉄駅で職員に乗車路線について尋ねた際に、私が聞き取ることができなかったため、その職員は紙を取り出し路線や乗換駅等を詳しく書いてくれた他、きっぷの購入にも付き添い、私が改札を通るまで見送ってくれたことで、これにはとても感動し、改めて日本のサービス業の素晴らしさに感銘を受けた。

大学名： 外交学院
氏　名： 薛欽月

テーマ： 1.国民性についての理解
4.日中間の交流

今回の 8 日間で私たちは京都、箱根、東京の各大企業、大学及び観光地を訪れ、至近距離で実際の日本を目にし、そして感じることができた。日本語を専攻する私はここ数年の学習により日本についてある程度の知識はあったが、今回の活動を通じての様々な体験はこれまでにないものであった。

以下は個人的な視点から見た日本である。

一. 私が感じた日本人の国民性

わずか数日で日本そして日本人について完全に理解するのは不可能だが、その輪郭については見て取ることができた。日本人のマナーや秩序等の常識的なイメージ以外に、今回の活動を通じて私は、日本人はやや保守的で新たな試みをしたがらないという点を目にした。ホストファミリーや大学生との交流において中国に関するテーマについて語る際、彼らはそれらについて全く知っておらず、彼らの中国への認知度の低さについては個人的にとても不思議に感じた。だが同時に、彼らは中国についてすごく知りたいと思っているわけではない、又は古い認知をベースに印象や観念等を加えたくないとの思いがあるのだと感じた。

二. 日中間の交流

上で述べた点が原因で日中間には多くの誤解や曲解が存在し、両国の友好関係をより難しいものにしていることから、深く幅広い両国間の交流が尚のこと必要となっている。今回の活動を通じて私は、日中交流の形式は様々で、国家的なハイレベルな活動に止まらず、民間的な個人レベルの交流もまた日中友好をサポートするもので、いずれも両国間の友好を強めるものであることを知った。この点は将来的に目指すものでもある。

大学名： 外交学院
氏　名： 余嘉誠

テーマ： 4.日中間の交流
5.アニメなどのソフトパワー

8 日間の交流活動はあっという間に終わり、飛行機が羽田空港に降り立った場面はまだ昨日のように感じられたが、現在私たちはすでに帰国の便に乗ろうとしていた。訪問期間こそ長くはなかったが、とても名残惜しく感じられた。それでも私たちは今回各業界のトップ企業 6 社を見学し、3 度の文化体験を行い、世界でもトップレベルの大学 2 ヵ所そして中国駐日大使館を訪れた。それらの体験を踏まえて、日中交流と両国のソフトパワーの視点から、「細かく」日本を見てみたい。

日本の人々の中国への認知度はどの程度なのか？三菱商事では中国で 10 年間の勤務経験があり熱心に西安泡饃を紹介してくれた中国通に出会った他、今回日本では中国に一度行ったことがあるが中国への印象が 10 数年前のものである日本人、そして中国についてほとんど何も知らない高齢者にも出会った。その中でも 1 つめと 3 つめは極端なケースであり、多くの人が 2 つめに該当している印象であった。だが日中友好の実現と確かな発展には両国の相互認識、相互理解が深まることが必要である。人々の相互認識を深める手段において最も効率的で普及している方法は民間交流（特に青少年交流）であり、次に文化の発信だと私は思っている。青年は比較的強い学習許容能力をもっており、将来的に自分たちの思想を教育において次の世代に伝えることができる。時間の関係で私は日本の青年が中国に関してどのような教育を受けているのかを知ることはできなかったが、京都大学では一人中国文化に興味があり個人的に中国語を学んでいる学生がいて、私が彼に中国に行ったことはあるかと尋ねた時に、彼は行ったことがないが香港や台湾には行ったことがあると答えた。私はすぐに「それは中国に行ったことがあるのと同じこと」だと正したが、これで本当に彼らの幼い頃からの考え方を変えることができるのだろうかと感じた。長期的で頻繁な踏み込んだ交流をしてこそ両国の人々が真に客観的にお互いに向き合い、理解し合い、日中の交流というものが実現すると思う。

またソフトパワーについて述べたい。私たち世代の青年でクレヨンしんちゃん、ちびまる子ちゃん、スラムダンクといった日本のアニメを知らない人はいない。その中でも多くの人は ACG 文化の熱狂的なファンで、中学や高校時に日本語を独学する人までいる。その一方中国には誇るべき五千年の歴史等のアドバンテージがあるものの、ソフトパワーの PR においては日本に大きく後れを取っているため、文化の発信等の面において各業界が更なる取り組みをしていく必要があると思う。

視察・交流先、行事

JAL整備工場：根本さんから羽田空港A滑走路に着陸する航空機の説明を受ける。JAL新鋭機A350が後ろに。

JAL整備工場：広大な格納庫内、北京から羽田まで搭乗してきたB787型機と同型機の前で全員集合。

Panasonic Design KYOTO:五感に訴える未来型家電の前で、中川主幹（右）の説明を聴く。

Panasonic Design KYOTO:グループワーク、テーマは、「弁当」。各校発想豊かに、コンセプト、ターゲット、価格など真剣にまとめ上げました。

京都大学：吉田国際交流会館での4グループに分かれての討論会。

京都大学：京都大学シンボルの時計台前で全員記念撮影

京都観光：嵐山の周恩来総理記念詩碑で。「雨中嵐山」を皆で読み上げる

京都観光：高台寺での座禅。執事・寺門浄因さんからの講話が身に沁みました。

京都観光：高台寺での茶道　抹茶、お点前、茶菓、畳、全員全身で体験をしました

新幹線：京都観光を終え、京都から小田原まで「ひかり」号で移動。

箱根観光：宿泊先での記念撮影。色とりどりの浴衣、畳、料理、宴会、源泉での入浴、と温泉文化を味わいました。

ソニー：会社概要説明を頂いた広報CSR部今田真実シニアジェネラルマネジャー、程団長を中心に記念撮影。

ソニー：CreavilityTechnologyを実現させるソニーを知るラボ見学後、最後の講義は人事センター・馬さんから中国語で。質問が集中しました。

皇居二重橋：「令和天皇・皇后陛下」がお祝いの会に揃って姿を見せられた二重橋を晴天の中で、見学しました。

三菱商事：西浦代表取締役常務執行役員から歓迎の辞、会社概要説明。右に地域総括部・池田統括マネジャー、人事部女性活躍ダイバーシティ室・中西室長。

三菱商事：歓迎交流会で平井中国総代表・執行役員から中国語でユーモア溢れる歓迎の辞。30名近い中国駐在経験者がご参加頂き充実の時間に。

三菱UFJ銀行：経営企画部中国室・関室長、国際業務部・周調査役からの業務説明後、活発な質疑応答となる。

三菱UFJ銀行：全員で記念撮影。終了後あいにくの雨、バス乗車まで歴史ある三菱UFJ銀行本店下で雨宿りになった。

日比谷松本楼：小坂社長から、孫文と梅屋庄吉の交友史を伺う、初耳の学生が多く、大いに感銘を受ける。

中国大使館：聶佳政治部参事官、程団長を中心に記念撮影、外が雨のため、室内で撮影となりました。

中国大使館：聶佳政治部参事官からの講話を頂き、各校の代表から今回の日本滞在についての報告がありました。

早稲田大学：白木教授のゼミナール学生がほぼ全員参加。白木教授のご指導で、短い時間ながらも濃密な議論、発表となり中国大学生からも好評でした。

早稲田大学：キャンパス内の生協で懇親会。「いつも何度でも」「都の西北」がそれぞれ大学生全員で歌われました。白木教授と程団長を中心に全員で記念撮影。

ホテルニューオータニ：ホテルから出る生ゴミ処理、汚水処理について説明を受ける。